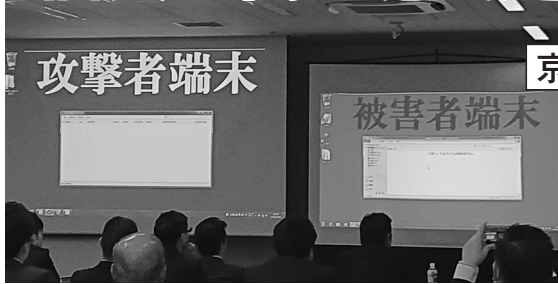


個人が高い意識を持って取り組む



情報セキュリティセミナーを開催

デモンストレーションのようす

京都代協は昨年12月6日、京都商工会議所京都経済センター(京都市下京区)で、情報セキュリティセミナーを開催した。2003年「Winny」利用者と作成者の著作権法違反事件をきっかけに「サイバー犯罪は京都府警が優秀」と全国的に評価されている「京都府警察本部 生活安全部 サイバー犯罪対策課」及び近畿管区警察局京都府情報通信情報技術解析課から講師をお迎えして、ご講演頂いた。(京都代協寄稿)

普段の生活から意識、行動を変える

サイバー攻撃は2009年と2018年を比較すると約22倍増であり、情報流出などで企業が被る損失は非常に大きなものになっていく。ニュースでも「〇〇会社の個人情報流出に関する特別損失は数億円にのぼる」などと耳にした方も多いのではないだろうか。しかし、その時は「サイバー攻撃は、近年、増加の一途をたどる標的型メール攻撃(特定の組織や個人に対して攻撃するメール)の脅威を、2台のパソコンを攻撃者端末、被害者端末に役割をわけ、実際にウィルス感染したパソコンがどのような挙動をみせるのかデモンストレーションを行って頂いた。

撃とはどのような特徴があり、どのように見分けたりよいか。「差出人のメールアドレスがフリーメールアドレスを使用している」「至急や要確認などメールや添付ファイルを開けざるを得ない件名」「exeファイルなど実行ファイルが付付」「過去に届いたことがない公的機関からの通知メール」など共通点があるとお話であった。

そして、我々、代理店も企業として、組織として、行うべきと情報セキュリティ対策として、①攻撃を防ぐ対策を導入する(ウィルス対策ソフトなどの適切な運用やアクセス制限など)②攻撃された時に被害を最小限に防ぐ(パスワード設定や暗号化、ネットワークの分離など)③内部犯行にも注意を払う(情報セキュリティ教育の実施やア

カウントや権限の管理、システム操作の記録や監視など)の3点を教えて頂いた。特に③は、私を含め、盲点だった方も多いのではないだろうか。実際、スタンドアロンのパソコンなどは対策を怠りがちである。改めて、目を開かされる思いであった。

最後になるが、サイバースペース化が進む業界への対応として、顧客情報はもとより、インターネットを利用する個人の一人ひとりが情報セキュリティ対策に対し高い意識を持って取り組むことが重要だというお話をさせて頂いた。我々、代理店もインターネット上のセキュリティが業界への対応として、顧客情報を守ることだけに留まらず、サイバースペースの安心、安全を意識し、普段の生活から意識、行動を変えていく必要があるであろう。